

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 25 年 8 月 29 日 (2013.8.29)

【公表番号】特表 2012-520984 (P2012-520984A)  
 【公表日】平成 24 年 9 月 10 日 (2012.9.10)  
 【年通号数】公開・登録公報 2012-036  
 【出願番号】特願 2012-500211 (P2012-500211)  
 【国際特許分類】

F 2 3 R 3/28 (2006.01)

F 0 2 C 3/30 (2006.01)

F 2 3 R 3/10 (2006.01)

【 F I 】

F 2 3 R 3/28 D

F 0 2 C 3/30 D

F 0 2 C 3/30 Z

F 2 3 R 3/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 25 年 7 月 9 日 (2013.7.9)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 10

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 10】

前記孔 (14) が 1 つの中心軸 (27) を含み、この中心軸 (27) が噴射ノズル (2) の中心軸 (5) と  $0^{\circ} \sim 60^{\circ}$  の範囲の角度 ( ) で交わり、あるいは、前記部分環状空隙 (28) が仮想の部分円錐状の外被 (29) を含み、この部分円錐状の外被 (29) が噴射ノズル (2) の中心軸 (5) と  $0^{\circ} \sim 60^{\circ}$  の範囲の角度 ( ) で交わることを特徴とする請求項 9 に記載のバーナ。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

この流れ通路を部分的環状空隙として形成する場合には、この部分的環状空隙が噴射ノズル中心軸と  $0^{\circ} \sim 60^{\circ}$  の角度、特に  $20^{\circ} \sim 40^{\circ}$  の角度で交わる仮想の部分円錐状の外被を形成するのがよい。この部分的環状空隙は好適には複数の部分的環状空隙セグメントを含むことができる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0047】

この部分的環状空隙 28 は符号 29 で示された仮想の部分円錐状の外被を形成し、この部分円錐状の外被は噴射ノズル 2 の中心軸 5 と角度 をなし、 は  $0^{\circ} \sim 60^{\circ}$ 、特に  $20^{\circ} \sim 40^{\circ}$  である。